

1. 概 要

□平成9年度

◎職員の異動

白山義久教授が東京大学海洋研究所より着任(平成9年7月16日)。

和田洋助手(University of Reading)を採用(平成10年1月16日)。

田中進事務掛長が転出, 吉岡正文事務主任が着任, 長谷川勉事務主任が事務掛長に昇任,
石田英實所長が任期完了, 白山義久教授が所長に就任(平成10年4月1日)。

◎行事・来訪者

国立大学臨海臨湖実験所長会議(春季)(於国立教育会館, 東京), 石田英實所長出席(平成9年4月21日)。

国立大学臨海臨湖実験所長会議(秋季), 公開臨海実習検討会(於三崎臨海実験所), 白山義久教授・久保田信助教授出席(10月25日)。

日本学術振興会招聘外国人研究者としてスセチオノ氏(インドネシア科学院・海洋学研究開発センター副所長)来日(11月6日～12月5日)。

防火訓練実施(12月17日)。

瀬戸臨海実験所年報第10巻, Publications of the Seto Marine Biological Laboratory 第38巻第1/2号発行(12月25日)。

水族館休館(平成9年12月29日～平成10年1月3日)。

水族館開館(1月4日)。

京都大学招聘外国人学者 A. M. El-Bossery 氏(Tanta Univ. 講師, Egypt)帰国(2月24日)。

日本学術振興会外国人特別研究員 F. Pagés 氏(Institut de Ciencies del Mar(CSIC), Barcelona, Spain)帰国(3月27日)。

2. 臨 海 実 習

□平成9年度

例年の通り, 京都大学理学部をはじめ諸大学の臨海実習が下記の通り実施された(大学・実習科目・実習期間・受講学生数)。

京都大学理学部生物系臨海実習 I	7.19-7.26	延	56人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 II*	3.15-3.21	延	42人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 III*	3.10-3.15	延	42人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 IV	7.26-8.1	延	28人・日
京都大学大学院人間環境学研究科海洋生物学実習	2.24-2.27	延	76人・日
京都大学大学院人間環境学研究科海洋化学実習	8.25-8.28	延	116人・日
京都大学理学部瀬戸臨海実験所公開臨海実習	9.16-9.22	延	21人・日
和歌山大学教育学部生物学臨海実習(植物)	4.7-4.11	延	70人・日
大阪千代田短期大学磯観察実習	5.7-5.9	延	69人・日
奈良教育大学教育学部野外実習 A-II(臨海実習)	5.19-5.25	延	147人・日
岐阜大学教育学部臨海実験法及び実習	6.2-6.7	延	90人・日
和歌山大学教育学部生物学臨海実習(動物)	6.24-6.28	延	55人・日
滋賀大学教育学部生物学臨海実習	7.1-7.5	延	130人・日
大阪市立大学理学部生物学臨海実習	7.7-7.13	延	147人・日

大阪教育大学教育学部理科教育講座臨海実習	7.28-8.2	延	81人・日
大阪大学理学部生物学臨海実習	8.4-8.9	延	96人・日
京都教育大学教育学部生物学臨海実習	8.18-8.23	延	54人・日
広島女学院大学生生活科学部海洋観測実習	8.28-8.31	延	35人・日
鳴門教育大学学校教育学部生物学野外実習	9.10-9.13	延	52人・日

*前年度末に実施

(計)	京都大学	6件	延	360人・日
	公開臨海実習	1件	延	21人・日
	他大学 国立	9件	延	775人・日
	公立	1件	延	147人・日
	私立	2件	延	104人・日
(総計)		19件	延	1407人・日

○公開臨海実習は「無脊椎動物系統分類学」と題して学部学生を対象に実施し、京都大学・東京工業大学・信州大学からの学生3名が受講した。

3. 研究会・来訪研究者

下記の研究会が開催された。

○「第16回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供：Christy, J. H. (Smithsonian Tropical Research Institute, USA), "The Sensory Trap Mode of Courtship Signal Evolution" 1997年7月2日

○「第17回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供：Boxshall, G. A. (Natural History Museum, UK), "Patterns of Copepod Development: Using Antennular Development to Classify Parasitic Forms". 1997年7月5日

○「第18回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供：Chang, Cheon Young (Taegu University, Korea), "Preliminary Report on Some Meiobenthic Invertebrates from Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan" 1997年7月30日

○京都在学生態学研究センターの援助を受けて、研究集会「日本列島における端脚目甲殻類の多様性をさぐる」が行われた。1997年11月22-23日

来訪研究者は次の通りであった。

○平成9年度(1997年4月1日-1998年3月31日)

学内	64名	427日
他国立大学	70名	603日
公立大学	7名	45日
私立大学	37名	156日
国立研究所・博物館	4名	19日
公立研究所・博物館	2名	9日
国内その他	39名	152日
国外	12名	257日
合計	235名	1668日
(内外国人)	19名	341日)